

＜サービスの質の評価に関する取り組みについての報告書＞

令和4年2月25日に、職員全員で「自己評価チェックリスト」に基づいた話し合いを行い令和3年度の福祉サービス内容評価を実施しました。

1…子どもの発達

発達と援助＝未満児クラスは、子ども一人ひとりの発達段階や発達の遅れがある子どもたちに、必要に応じた援助ができるよう、クラスにとらわれず発達に応じたグループ分けで活動し、職員間での連携を深め、適切な援助や環境構成に努めた。以上児・未満児ミーティング、ケース会議等を通して、子どもたちの様子、物的・人的環境について話しあい、情報を共有できるよう努めた。気になる様子が見られる子どもには、保護者と情報を共有しながら、原因を探り、個々の状態や特性に応じた働きかけができるようにしている。

2…教育及び保育の内容

[**養護**]＝コロナ感染症が流行し、全クラス毎日の検温と健康状態を記入してもらう事とし、登園時の視診・触診・検温を行うことで、発熱や体調の変化、異常に早期に気づき、早めに対処するよう努めた。コロナ感染防止対策として、手洗い、室内・玩具の消毒、換気・加湿をこまめに行うように心掛けた。朝礼・昼礼・連絡ノートを通じて、情報を共有し、玄関先の保護者との対応では、担任以外の保育教諭でも対応できるようにしている。子どもの出すサインを素早くキャッチし、子どもたちの気持ちを丁寧に理解して寄り添う保育者の対応や温かい雰囲気づくりに努めた。

[**教育**]＝園児が主体的に、様々な活動を意欲的にできるような働きかけをしたり、子どもたちが自分で、好きな活動を選択して、満足した経験ができるように、様々な環境を提供するように心掛けた。コロナ禍で、行事が中止になったり、縮小しなければならない中でも、今までの行事の形にこだわらず、どうしたら子どもたちが楽しめるだろうか…と、職員が意見を出し合い、園外活動も充実させることができた。以上児クラスは、成道会を通して、無理強いすることなく、様々な成功体験を重ね、「こんなこともできるんだ！」という自信に繋げる事ができた。子どもたちから、「もっとやりたい！」と言って、楽しみながら、意欲的にいろいろな活動に取り組む姿が見られた。

◎ **環境**＝園庭が土になったことで、つまずいて怪我をすることがなくなったのだが、雨雪が降ると、泥んこになってしまうので、園庭で遊べない日が増えてしまったが、近隣の広場に足を運んでのびのびと身体を動かして遊べるように、天気の良い日には、積極的に外に出て戸外活動を充実させる事が出来た。昨年と同様、鶏糞を蒔くなどして土づくりをし、草取り・水やりなど園全体で協力して畑づくりができた。今年も、大根、ジャガイモ、さつまいも、人参、ピーマン、ラディッシュ、きゅうりを栽培し、大根・じゃが芋は豊作で、各家

庭に配ることができ保護者の方にも喜ばれた。今年初めてとうもろこしを植えたのだが、育て方が難しく実が育たず、残念だった。

エアコンが老朽化していたことで、なかなか保育室が冷えず夏場暑くて、食欲が減少したり、寝つけずにいたりする子がいたが、エアコンの台数を増やし、大きなものを付けて頂いたことで、快適に子どもたちが過ごせるようになった。

- ◎ **言葉**＝経験した事や自分の考えたことなどを自分なりの言葉で伝えられるように、発達にあった言葉がけ、配慮ができるように努めた。子どもたちの相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度が、誰が相手であっても、耳を傾けられるようにするにはどうすればいいのか、考え合った。相手の話をしっかりと聞き、次の行動に移せるように繰り返し伝えてきた。未満児クラスでは、言語の発達を促すために、毎日必ず絵本や紙芝居の読み聞かせを楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして、楽しい雰囲気の中で話したくなる気持ちを育めるように努めた。
- ◎ **表現**＝未満児クラスは保護者参観日では、保護者の前で発表を見せる事ができず、残念ではあったが、劇遊びや楽器を鳴らしたり、曲に合わせて身体を動かして楽しんでいるミニ発表会の様子を保護者に動画配信した。以上児クラスは「成道会」は、例年とはまた違った形で発表することにはなったが、今まで頑張ってきたものを見せる事ができ、園でのステージとは違う舞台に立って、保護者の方にみてもらえた成功体験は子どもたちにとって大きな自信につながった。3学期には、以上児クラスが各クラスで鍵盤ハーモニカを使って、それぞれ子どもたちに見合った合奏に取り組み、お別れ会に演奏した。鍵盤ハーモニカだけではなく、キーボードやハンドベルなど様々な楽器に触れ楽しむことができた。子どもたちが楽しんでできるように、どのクラスも工夫を凝らして、表現する楽しさを伝える事ができた。
- ◎ **障がい児保育**＝

年長児1名、年中児1名、年少児1名、桂堂・はまなすを併行通園。年長児1名に関しては、週1（水曜日）、2才児男児は、（金曜日）園で1日過ごしている。

3…教育及び保育の内容に関する全体的な計画及び評価

全体的な計画を作成し、教育課程に基づいて、年、月、週の指導計画を立てて教育及び保育を実践している。就学に向けたアプローチカリキュラムの計画を新たに立て、年長児は小学校の就学までに身に付けたい力を一年間の目標を立てて実施してきた。目標をもって、諦めないで取り組む事で、出来る力を伸ばし、自信へとつながる保育を心掛けてきた。

日々の活動を通して、今子どもたちが必要となるものな何か、育てて欲しいと感じる姿を職員間で意見を交わし、以上児クラスは特に、内容がいつも充実したミーティングであった。今後も、外部研修やキャリアアップ研修等で学んだ知識を保育教諭等で共有しあい、実践に活かせるように学び、職員の質の向上を図っていく。

4…健康及び安全

◎ **事故予防**＝「事故防止委員会」を設け、副園長、主幹、以上児・未満児のリーダーの4人で「事故リスク軽減の為にチェックリスト」の確認と「インシデントレポート」の事故関連の検証をしている。今年度は事故報告書8件を検証した結果報告とそれに伴い、今後の対策についての話し合いもし、後日職員会議にて報告し共有している。今年は目に砂が入ってしまう事が多くなってしまい、今までなら、園内で目を清浄し、看護師に手当てをお願いしていたのだが、砂の取り残しがあったり、目に見えない傷があったりすることも考慮して受診する事が増えてしまった。

◎ **食物アレルギー**＝職員全体で共有し、アレルギーの園児に対して、給食調理員とも連携を図り、トレーの色別や名前カードを用いたり、確実に間違わないようにと、個別に発泡スチロールの箱に入れるなどして徹底することにした。食事の際は必ず職員がそばにつき、席を固定し写真を貼るなどの対応を続け、誤食を防いでいる。給食室で確認しているから、大丈夫！と思わない事。保育者の目でも再度確認することを意識するよう努めた。

◎ **食育**＝調理担当者が日替わりでその日のメニューや食材・栄養について、分かりやすく話をしてくれる事もあって、食材に関心をもって食事している。また、園児が栽培し収穫した野菜を給食調理に使い、食材への興味や関心を引き出すようにしている。例年に引き続き3歳以上児がカレーライスやフルーチェ作りを行う。クッキング教室は、今年度も2回実施でき、年長児のお泊まり保育での夕食材料を購入するお買い物体験も昨年同様行った。他にもケーキ作りをしたり、焼き芋を戸外で焼いてたべたり、みかん拾いを楽しんだり調理体験や園児が食への興味が出るような計画を立てて実施した。

◎ **感染症**＝コロナウイルス感染症の流行に伴い、対策について早急に保護者に文書を配布・掲示をする。全クラス毎日の検温・健康状態を記入、手指の消毒、マスク着用、気になる様子体調不良が見られた場合には、家庭で様子を見てもらうなど、家庭保育の協力を呼びかけた。職員も同様、家族で疑いの可能性がある場合には、早目の対応に努めた。コロナ感染で休園している園が多い中、今のところコロナ感染することなく、開園できていることに感謝し、引き続き対策を徹底していきたい。

5…保護者に対する支援

◎ **保護者**＝子どもの事で、保護者が困っていることや気になる事があり相談された時には、保護者の思いを受け止め個別に話し合う場を設けたり、園での様子をみてもらうなどして、どういった支援、関わり方が必要なのかアドバイスしたり、内容によっては園長に相談するなどして、適切に対応している。コロナ感染症対策として、保護者の方に園内への侵入を控えて、玄関先での対応となり、なかなか担任とのコミュニケーションが取れなくなっているため、玄関に立った時には、積極的に声をかけるなどして保護者と信頼関係を築けるよう努めてきた。今年は保育参加や懇談会ができなかったため、保護者からとても残念という声が聞かれ

た。

- ◎ **虐待**=早期発見に努めているが、今年度は虐待を疑うようなケースは 1 件もなかった。
- ◎ **子育て支援**=コロナ禍の中ということもあり、蜜をさけ、いつもより間隔をとるなどして、個人面談は行うことができた。クラス懇談会では、毎年保護者の考えや意見、そして子どもの長所、短所を織り交ぜながら、保護者と共通認識する機会として実施していたが、今年は断念した。いつでも入園希望の見学者が訪問した際には、笑顔で丁寧に園の特徴を伝えながら、質問や要望にも適切に対応するように心掛けた。コロナ感染症対策として、見学の際には園内進入は避け、玄関先で対応した。見学者の中には、園内を見られなくて残念だが仕方ないと玄関先での対応に納得して帰られる方もいた。

6…職員の資質向上

- ◎ **一般常識**=ゆとりをもって出勤し、言葉遣いや礼儀をわきまえた態度で仕事に臨むよう努めた。書類の提出期限や就業規則など全職員が周知して、守られるよう声を掛け合い、子どもに対する丁寧な関わりや正しい言葉づかい、声のボリュームを意識して保育に努めるように心掛けた。慌てずに、状況に応じた適切な対応ができるようにしていく。
- ◎ **コミュニケーション**=ミーティングをこまめにとるようにし、すこしの事でも、職員間で共有して、連携を深めてきた。急遽職員が休みになっても、状況を判断し、出来る範囲で保育出来るように、チームワークでうまく回すことができています。発達段階に応じた援助がスムーズに行えるように職員間で情報を共有し合うことを心掛けた。大きな声だったり、曲をかけて自分のクラスを中心とする活動をしてしまうこともあり、ミーティングを通して、全体を見通して、お互い尊重し合って保育に臨めるようにと話し合うことが出来た事で、意識して保育するようになってきた。ミーティングでは、意見し共有し合い、パート職員にも伝達を忘れる事の無いように努め、同じ方向性のもと保育を進めることが出来るように努めた。
- ◎ **保育教諭の意欲・姿勢**=今年度もコロナの影響で行事が今までのようにできなかったのだが、出来ない！ではなくて、出来るようにするために何かよい方法はないのか…。常にみんな考えて取り組んできた。どの行事も子どもたちのために手をぬくことなく、毎年違った形で楽しめる内容を計画し、保護者の方にも喜んでもらえた。研修は、zoomでの研修が増えたことで、昨年より研修を多く受けられた。意見し合える明るい環境となり、より良いものとなるよう、どの職員も前向きで意欲的であった。作品展示では、保護者が園内に入れないのでは、展示する意味がないのでは…という考えもあったが、作品展示は保護者が見るためだけに、展示するわけではない。子どもたちが今まで作ってきた作品を見ることで、感性を豊かにするためにも。と、子どもたちのために、クラスごとに工夫を凝らし、素敵な作品展示週間にしてあげたいという職員の気持ちがこもったものとなった。子どもたちが楽しんで、園生活を過ごせるように、意欲的に取り組むことが出来た。
- ◎ **指導力**=職員の経験年数に限らず、指導力に関して力量の差はあるが、コツコツと積み重ねてク

ラスの発表では、それぞれの良さを生かして、子どもたちの出来る力をぐーんとのばしてあげることができた。職員の力量を把握しながら、それぞれの得意、不得意を考慮しながら、フオローし合って、一人ひとりの良い面を活かして教育及び保育に力を注げるよう、協力体制を整えていく。和太鼓指導では、指導の仕方も手探り状態の中、今までの和太鼓の動画をみて学び、しっかりと自分のものとして、子どもに指導する職員の姿に刺激を受けた。

<今後の課題>

- ◎桂堂学園との併行通園児の発達段階・特性がバラバラなので、保育教諭1名だけでは、対応が難しい。早番・遅番では大きな集団ですごしているが、送り迎え時は、2名で対応。スキルをもっと身につけるようにしたい。
- ◎保護者への配慮（連絡・掲示物・信頼など）を丁寧に行うように努める。
- ◎ミーティングの中で「環境保育」を再確認しながら、みんなが意見を出し合い、話し合いを充実させる。
- ◎日々の保育では指示命令や指導型にならないよう、職員一人ひとりが十分に心がけ、園児主体の教育保育を行う。
- ◎自分のクラスを中心に考えて保育するのではなく、チーム保育の重要性を認識し、職員との意思の疎通を図り、一人ひとりが心掛けて教育保育に取り組む。
- ◎思いつきの保育ではなく、1年を見据えた計画を立てるようにする。
- ◎保育室・テラスなど片付け、広くスッキリし環境が改善されたが、一人ひとり意識して、元の場所に戻すなど徹底して、整った環境が維持出来るように心掛ける。
- ◎ステージ下を片付けたことで、出し入れがしやすくなった。不要なものは捨てるなどして、整頓しやすい、スッキリした環境を心掛けたい。使ったものは、元の場所に戻すという意識がまだ低い様に感じるので、お互い意識出来るように声をかけあうようにする。
- ◎コロナ感染対策として、出来ない、やらないではなく、まずは子どもたちが楽しんで園生活を送られるように、今までのやり方にとらわれず、今できることを工夫して取り組む。
- ◎職務分担に関しては、曖昧な内容でなんとなく担当して、次に引き継いでいるものもあるので、内容を見直し、確認し合うことが大事。（自己流でやっている職員もいるため）
- ◎調理時間の配分など考慮し、早出や遅くまで残ることがない様にしていく。
- ◎栄養面重視。カルシウム・塩分の改善をしていく。残食を少なくする。
- ◎園全体として、改善した方が良い事など、連絡を取り合って、改善点などは、給食を含め、全職員に共有できるようにしていく。
- ◎給食の職員も基本的なマニュアルは、周知できているとは思いますが、話し合う場を設け、共有し合うことが必要である。（給食ミーティングが合ってもよいのでは）